

## 近藤みゆき先生追悼文

近藤先生が亡くなられたのは十二月のことだったそうですが、私に訃報が届いたのは四月の事でした。私は近藤先生のゼミで卒業論文を書き、その後、縁あって国文学科研究室の助手として三年間勤務させて頂きました。その後紆余曲折ありましたが、現在は病院の事務として働いています。コロナ禍で世の中が騒がれている中、緊急事態宣言が出され学校教育現場で授業ができなくなっている現状をニュースで知り、ふと「実践女子大学はどうやって授業しているのだろうか」と思い、久しぶりに大学のホームページを閲覧しました。お世話になった先生方のお名前を懐かしく拝見していたところ、教員一覧に近藤先生のお名前が無い事に気が付きました。私が学生の頃から、先生は周囲に心配をかけまいとご自分からはあまりご病気の事をおつ

## 成 田 静 香

しやるような事はされない方でした。しかしやはりご体調の関係で、おそらく近藤先生ご自身も悔しい思いをされたでしょうが、担当される授業数を減らす事を決断された際には、「周囲と大学側の配慮が本当に有難い」とおっしゃっていたので、近藤先生が実践女子大学を去る事が全く想像できませんでした。きつと一旦休職されているだけなのだと、思わせて欲しいと願っていたところ、佐藤悟先生より近藤先生が去年お亡くなりになられたというご連絡と、追悼号執筆のお話があり、今回執筆させて頂く事となりました。コロナ禍のため大学に卒業生として伺わせて頂く事も出来ずにいましたので、佐藤先生からご連絡がなければ私はずっともやもやとした日々を過ごしていた事でしょう。

私が近藤先生の授業を初めて受けたのは大学三年生の時でした。授業を受ける内にそれまであまり興味のなかった和歌の世界に魅了され、ゼミの希望を直前に近藤先生に變更しました。近藤先生は学生一人一人を見ていらつしやる先生でした。これがおそらく初めて話した会話だと思いますが、「近藤先生のゼミを希望したいのですが」と相談に伺ったところ「いつも授業を真面目に受けて下さっていますね。」と声をかけて下さった事を覚えています。これまで地味な学生時代を送っていた私にとって、「真面目に授業を受けている」ということをみて下さっていた事にちょっとした驚きを覚えました。これは私にのみ言える事ではなく、近藤先生は学生ひとりひとりを細やかに気にかけていらつしやつたので、どの学生にも平等にお優しかった事は誰もが納得されると思いますし、そんな近藤先生を私はとても尊敬しておりました。その後、近藤先生の手厚い指導により無事卒業論文は完成し、縁がありましてそのまま助手として勤務する事になりました。学生の間も、助手として働かせている間も、近藤先生の気遣いは変わることはなく、ちょっとした人の元気のなさそうな様子にも気が付き、声をかけて下さいました。私は仕事に関する事だけではなく、私生活の相談もしてしまう程で、ちよつと近藤先生に甘えすぎているかもしれないとは思いますが

も、どうしてもその優しい口調と的確なアドバイスからお話をしてしまう事が多くなつてしまいました。

近藤先生からかけて頂いた言葉で、当初あまり自覚がなかった言葉があります。「成田さんは完璧主義ですね。」というお言葉です。学生時代も助手時代も共通してそうおっしゃられたのですが、当時はあまり響く事もなく、近藤先生の口ぶりから、誉めて下さっているような心配して下さっているような感じを受け取ったのですが、自身としては「周囲の迷惑にならないようにしたいだけなのにな」位にしか思っていないませんでした。その後私は助手としての任期を終え、そこから就職や仕事の事で思い悩むようになりました。自分が一体何がしたいのか自問自答するようになり、悩んでいる時間も増えるようになりました。その後引越しをする事になり、自身の荷物を整理していた時に卒業論文とその資料一式が出てきました。懐かしさもありません。懐かしさもありそれらを見ていた所、確かにその当時卒業論文の執筆がおもしろく、自分自身でもできる限りの努力はしたなと思つた覚えはありましたが、かつての自分の卒業論文を自分自身が数年たって俯瞰で見ることができた時に、思つた事が「私って、細かいな」でした。その時ようやく「ああ近藤先生が仰っていたのは、こういう意味だったのか。」と数年越しにようやく意味を理解する事ができました。まさか自分で

もあのお言葉がここでブーメランのように返ってくるとは思わず、その人の本質を理解して指導して下さっていたのだなと改めて近藤先生とご一緒できた時間はとても有難い経験だったのだなと思いました。

近藤先生から多くの気付きを与えて下さったこと感謝してもしきれません。近藤先生がご病気を抱えながらも、女性研究者としてお仕事の上でも功績を残され、あれだけ周囲に気を配りながらも常に笑顔を絶やさない姿勢を貫けるのは、どれだけ大変なことであっただろうと自分が働く側の人間になった時に、改めて思いました。

この場をお借りして近藤先生のご冥福をお祈りしたいと思います。

(なりた しずか・平成24年度卒業生)